

モーツァルト室内管弦楽団 第170回定期演奏会

〈モーツァルトとハイドン〉その10



指揮◆門 良一

開演10分前より指揮者によるプレトーク有

Mozart und Haydn

《モーツァルト》

交響曲 第31番 ニ長調 K.297 《パリ》

ピアノ協奏曲 第22番 変ホ長調 K.482

《ハイドン》

交響曲 第104番 ニ長調 Hob.I-104 《ロンドン》



ピアノ◆内田 裕子

*Ryoichi Kado & Reiko Uchida
mit dem Mozart-Kammerorchester*



2016.

6/18(土) いずみホール

2:00pm開演(1:30pm開場) 入場料: 一般 ¥5,000(指定席) / 学生 ¥1,000(当日限定数発売) *小学生よりご入場いただけます。

JR環状線「大阪城公園」駅から3分、「京橋」駅から7分、
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から5分。
有料駐車場完備

主催◆モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org> 協賛◆いずみホール[一般財団法人住友生命福祉文化財団]

マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504 e-mail:artists@gol.com

〒530-0041大阪府北区天神橋3-3-3南森町イシカワビル507 URL:<http://www.oaa1985.com/>

前売

大阪アーティスト協会 050-5510-9645(電話受付:平日10~18時) いずみホール 06-6944-1188  0570-02-9999(Pコード:291-794)

ローソンチケット 0570-084-005(Lコード:52895)

*大阪アーティスト協会は世界の子どもの未来を支える大阪ユニセフ協会に賛同し、コンサート会場で募金活動等を行いながら、音楽を通して少しでも社会に貢献できるような取り組みを続けています。皆様のあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。



パリとロンドンにおけるモーツァルトとハイドン

好評の〈モーツァルトとハイドン〉シリーズ、今回は二人の作品の中で18世紀の二大音楽マーケットであったパリとロンドンの名を冠した交響曲が選ばれた。モーツァルトが8歳の時ロンドンで作曲した交響曲第1番はモーツァルトの「ロンドン交響曲」と呼ばれることがある。後年、22歳のときモーツァルトは再びパリを訪れ、そこで作曲されたのが今回演奏する《パリ交響曲》である。一方、ハンガリーに長く居たハイドンは遠くパリから交響曲の注文を受け(52歳)、6曲からなる《パリ交響曲》(第82～87番)を作曲した。ハイドンは57歳のときロンドンに招かれ、12曲からなる〈ザロモン・セット〉と呼ばれる交響曲集を書き、大成功を収める。この12曲をまとめて《ロンドン交響曲》と呼ぶこともあるが、12曲の最後の今回演奏する曲(第104番)を、通常《ロンドン交響曲》と呼んでいる。また、モーツァルトのピアノ協奏曲第22番はモーツァルトが全くの”躁”状態で書いたと思われる極めてユニークな作品であるが、それを今年86歳になる大家、内田裕子(Reiko Uchida)がどのように表現するのか大変に興味深いところである。

モーツァルト室内管弦楽団／指揮:門 良一 *Mozart-Kammerorchester Japan / Ryoichi Kado, Dirigent*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、45年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を、15年からは〈創立45周年シリーズ〉を開始している。

内田裕子●ピアノ *Reiko Uchida, Piano*

神戸女学院(現・大学)音楽学部卒業。山田康子、井口基成の両氏に師事。第19回毎日音楽コンクールピアノ部門第1位並びに特別賞後、各地労音例会やNHK「土曜コンサート」「夕べのリサイタル」、NHK-FMリサイタルに出演する他、妹小島準子との2台のピアノの演奏会を東京・大阪で開催。また、山田和男、朝比奈隆、森 正をはじめ著名指揮者のもと大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、東京交響楽団、大阪NHK放送管弦楽団、テレマン室内管弦楽団、大阪シンフォニカー、ブルガリア国立トルブーピン室内オーケストラ、アルカディア室内管弦楽団、モーツァルト室内管弦楽団等と協演多数。1955年大阪市民文化祭賞、1956年毎日音楽賞・新人奨励のための特別賞、1957年N.J.B.リサイタル賞、02年宝塚市民文化賞受賞。相愛大学音楽学部で長く教鞭をとりながら、精力的な演奏活動を展開し、2010年にはいずみホールにて音楽生活60周年記念リサイタルを開催。その後もリサイタルやコンチェルト、室内楽等、数多くの演奏活動を続け、近年は大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターの田野倉雅秋氏と首席チェロ奏者の近藤浩志氏との共演で好評を博している。相愛大学音楽学部名誉教授。日本ショパン協会関西支部理事、宝塚演奏家連盟運営委員。